

野菜研究室ダイアリー

2025 年 6 月



○2024 年度作の栽培試験が大詰めです

私たちの研究室では、夏から秋にハウスや温室に植えて冬を越し、翌年の春から初夏に掛けて栽培される野菜の試験研究を実施しています。2024 年の夏から秋に開始した「2024 年度作」の栽培試験が大詰めを迎えました。



トマトの栽培試験の様子です。



ベッドごとに肥料と水の与え方を変えるため、タンクがたくさん並んでいます。



収穫して、収量と品質を調べます。



イチゴの後片付けの様子です。



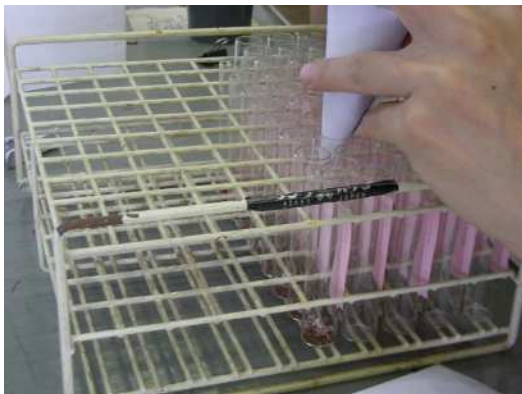
次に植えるイチゴの苗の準備が進んでいます。

○新品種育成の取組の様子を少しだけご覧に入れます

現在、イチゴ、トマト、ナスの新品種育成に取り組んでいます。民間企業との共同研究が含まれるため、あまり詳しいことはご紹介できませんが、日々の仕事の一旦をご覧に入れます。



トマトの形や色、生育具合を観察し、意見交換しています。和気藹々としつつも、真剣な面持ちです。



新品種育成のために交配したイチゴのタネをまくための前処理※)の様子です。



イチゴのタネまき作業です。タネがとても小さいので、神経を使います。

※) イチゴのタネはそのままでは発芽しづらいため、濃硫酸に 10 分程度つけ込み、よく洗う前処理が必要です。発芽しにくいこと自体が、果実を哺乳類や鳥類に食べさせて遠くまで運ばせるというイチゴの繁殖戦略であると考えられます。自然界では、イチゴのタネは果実と一緒に哺乳類、鳥類の消化管に入り、胃酸で処理される形となり、糞と一緒に排泄されて発芽します。

○野菜の出荷先にお邪魔し、お話を伺いました

試験栽培で収穫された野菜は、必要な調査を実施した後の一部を卸売市場に出荷しています。6月中旬に2024年度作の出荷を終了したので、ごあいさつを兼ねて出荷先の瀬戸総合卸売市場にお邪魔し、お話を伺いました。青果物の流通に携わる方々から直接お話を聞くことができ、勉強になりました。



収穫したナスとトマトをサンプルとして持参し、お話を伺いました。



この日の私たちの出荷物です。



数日続いた雨が上がった6月のある日の朝、場内の路上におびただしい数のミミズが這い出してくて、干からびて死んでいました。土の中で、一体何があったのでしょうか？